

プロジェクト名：20世紀および21世紀のピアノ音楽の演奏と録音  
～西オレゴン大学でのリサイタル等に備えて～

プロジェクト代表者：<sup>えびすた</sup>蛭多令子（教育学部音楽教育講座・教授）

## 1. 研究の目的

申請者は、本学大学間交流協定校であるアメリカ合衆国西オレゴン大学の招聘により、平成 21 年 11 月 11 日（水）および 12 日（木）、同大学エドガー・H.スミス音楽ホールにおいて、現代のピアノ作品によるレクチャーリサイタルとレッスンを行った。

本研究の目的は、その準備として、音楽専用ホールにおいてリハーサルと録音を行い、演奏の内容を客観的に確認し、質の向上を目指すことであった。演奏曲目には、国際的評価の高い武満徹、西村朗、藤枝守、田中カレン、そして本学教授の鈴木静哉の作品を選んだ。日本の作曲家に限定した理由は、今回の渡米が協定校との国際交流を兼ねており、日本の音楽文化の紹介に相応しい機会と判断したからである。

## 2. 研究の進め方

録音日に向けて練習を重ね、下記のとおり演奏と録音を行った。

演奏・録音日時：平成 21 年 10 月 19 日（月）9:00～22:00

演奏・録音曲目：（ ）内は作品の作曲年

武満徹作曲《遮られない休息》（1952/59）、《フォー・アウェイ》（1973）

西村朗作曲《法悦の鐘》（1987）、《星の鏡》（1992）

藤枝守作曲《フォーリング・スケール第 1 番、第 2 番》（1975）

田中カレン作曲《テクノ・エチュード》（2000）

鈴木静哉作曲《ピアノのためのランドスケープⅢ》（2008）

演奏・録音会場：彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール

使用楽器：スタインウェイ（フルコンサート）

ピアノ調律担当：渡辺幹雄

録音・編集担当：齊藤雅頭

## 3. 研究の成果

優れた楽器と音響設備が整った環境での丁寧な録音工程、適切な編集作業等により、音響的によい状態で演奏を記録することができた。録音された演奏を冷静に検討した結果、強弱、速度、音色等、楽譜に則して改善すべき点が多々明らかとなり、西オレゴン大学でのリサイタルおよびレッスンに向けてのよい布石となった。（西オレゴン大学の詳細については、教育学部 HP 最新情報「西オレゴン大学での連携活動を終えて（2010/01/26）」を参照。）